

スペイン・グラナダ大学留学

馬路 陶子



スペインの国旗



グラナダで最も有名なアルハンブラ宮殿

私は2022年9月から約10か月間の予定で、スペインのグラナダ大学に交換留学生として滞在しています。このレポートでは、グラナダの紹介、留学生活、スペイン人の埼玉に対する印象などについて取り上げます。

スペイン・グラナダの紹介

スペインの人口は約4740万人で、ヨーロッパの西側にあります。グラナダはイベリア半島の南部アンダルシア地方にあり、かつてイスラム教の支配下にあったため、アルハンブラ宮殿などにその面影が色濃く残されています。

アルハンブラ宮殿は世界遺産として有名なので、一年中多くの観光客で賑わっています。また、グラナダの人口25万人のうち学生が6万人もいることから、「大学の街」とも言われています。スペイン各地から訪れる学生たちがたくさんいるため、グラナダ出身の学生に出会う方が難しい、という話もよく聞きます。

気候は、夏は暑く冬は寒いです。雨はとても少なく、夏は冬よりも乾燥するため、街の外に広がるオリーブ畑で山火事が起こることも少なくありません。14時から16時くらいまでは、シエスタと呼ばれるお昼休憩があり、多くの店は閉まってしまいます。

私の留学生活

私はグラナダ大学の社会福祉学部で、スペイン人とともに授業を受けています。今学期に履修している科目は、「ジェンダー平等と視点」「社会福祉における政策」など、スペインにおける社会福祉の基本を学んでいます。私は高校生生のときに南米の孤児院でボランティアをした経験があり、いつかスペイン語で社会福祉を学びたいと思っていたことから、この学部を選びました。学部の90%以上は女子学生です。積極的に発言したり、時間をかけて課題に取り組んだりする学生が多い印象を受けました。スペイン語での授業は、専門的な用語や、スペインの社会福祉の仕組みなどを理解するのが難しいこともありますが、日本とは異なる考え方を知ることが多く、興味を持って授業に参加することができています。

留学中の住まいは、留学前にインターネットで探した学生寮です。スペイン各地から来た約 20 人の友達と一緒に暮らしています。スペインの方言を知ることができたり、ネイティブとの会話ができたりするなど、寮生活ならではの体験を得ることができました。また、大学ではスペイン人はもちろん、ユーロ圏からの留学生たちとも勉強をしたり食事をしたり、ときには旅行などをして、将来まで付き合いたいと思える友達をたくさん作る事ができました。

留学を通して知り合えた友達にとっても、私とのつながりは、日本への関心にもつながっているようです。国際交流というのは大きな枠組みで捉えることもできますが、1対1の付き合いから相互理解を深める取り組みこそが大切だと、実感をもって行う毎日です。

スペイン人の埼玉県に対する印象

スペインでは日本のアニメが大人気です。多くの人がポケモンやワンピース、ドラゴンボールなどを見て育ったようで、中でもクレヨンしんちゃんは誰もが知っているほど大人気です。私の出身地も埼玉県だと伝えたところ、「カスカベ？」と尋ねる友達がありました。別の友達にクレヨンしんちゃんが描かれたお菓子「チョコビー」をプレゼントしたときには、写真を撮って家族に送り、「しんちゃんの街から来た友達がいるのよ!」と自慢していました。また、ある教授が授業で日本の家族の構造について説明する際、クレヨンしんちゃんを例に挙げることがあり、その認知度の高さに驚きました。

滞在中は、スペインで知り合った多くの人たちに、埼玉県には春日部以外にもたくさんの町があることを伝え、私の出身地である入間市の特産品「狭山茶」を紹介しました。その理由は、スペインのカフェには「抹茶」や「緑茶」などのお茶のメニューがあるものの、飲んだ経験がある人は実は意外に少ないと、スペイン人たちから聞いたからです。そこで積極的に狭山茶を勧めたところ、「苦いけれどおいしい」「料理に使いたい」「また飲んでみたい」という感想が寄せられ、日本のお茶に関心をもつ人を増やせたことが実感できました。狭山茶をとおして、埼玉県の認知度がさらに向上するよう働きかけたいと考えています。

終わりに

スペインでは、後悔のない充実した留学生活を送ることができています。奨学金を支給してくださった方、埼玉県の国際交流協会の皆さまのご協力のおかげです。埼玉県から世界にはばたく一人になれたことを誇らしく思います。留学修了後はスペインでの留学経験を活かして、たくさんの人材が世界へはばたける環境を、私も一緒に作っていきたいです。

